

研究課題名	粘液型肺腺癌の特異的マーカーと細胞株の樹立
研究責任者名	原爆放射線医学研究所 放射線災害医療研究センター 腫瘍外科 教授 岡田 守人
研究期間	2020年3月3(倫理委員会承認後)～ 2024年12月31日
対象者	1997年1月から2018年12月の間に、広島大学病院で粘液型肺腺癌に対して手術による治療を受けられた患者(先行して行われる「粘液型肺腺癌(mucinous adenocarcinoma)におけるKRAS 遺伝子変異、NRG1 遺伝子転座発現の臨床背景と意義(研究承認番号:E-1546)」の対象患者)で、研究参加に拒否の申し出がない患者。
意義・目的	肺腺癌の中で特殊なタイプである粘液型肺腺癌は、以前より存在は知られていましたが特殊なタイプとして近年改めて分類され、まだ不明な点が多く診断や治療に苦慮することも少なくない肺癌です。 この研究では粘液型腺癌に特異的にみられるたんぱく質や遺伝子を特定し、将来的な診断に役立てる事を目的とします。また、癌細胞を培養することでそれを使った新たな治療の可能性を探る事も目的としています。
方法	この研究は日本、スペイン、ドイツ、米国での共同研究で解析や検査は主に米国で行われます。広島大学からは、診療録(カルテ)情報と手術で切除された標本、E-1546で得られた遺伝子検査結果を米国の共同研究機関に送付し、調査に用います。用いる内容は年齢、性別、手術の種類、腫瘍の部位、病期、顕微鏡検査での腫瘍の特徴、検討対象となる遺伝子形態の有無です。(個人を特定可能な情報は解析に用いません)
共同研究機関	Cincinnati Children's Hospital Medical Center (アメリカ) University of Heidelberg (ドイツ) Quiron-Dexeus University Hospital (スペイン) 長崎大学 川崎医科大学
試料・情報の管理責任者	Cincinnati Children's Hospital Medical Center Dr. Maeda Yutaka
研究の方法・結果の開示について	本研究は施設長の許可に基づいて広島大学 呼吸器外科の研究資金及び共同施設の研究資金を用いて行われており、参加することで新たな身体的・経済的負担が生じる事はありません。希望があれば研究の方法に関する資料を、公開可能な部分について文章で閲覧できますが、参加者個人の具体的な研究結果についてはお答えできません。
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはあり

ませんのでご安心ください。提供された標本や資料は共同施設で個人が特定できない形で保管され、研究期間終了5年後に破棄されます。なお、本研究で得られた結果を将来の研究に用いる場合は、改めて倫理審査委員会の承認を得た上で実施します。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5866

広島大学病院呼吸器外科 呼吸器外科 宮田 義浩